シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT3303		
科目名	ボランティア論		
担当教員	中川　和之		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木３		
講義室	1310	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 E1　学識と専門技能（20%） B1　自己啓発（20%） C1　倫理的思考・社会認識（20%） Ｉ1　理解・分析と読解 (20%) Ｉ2　量的分析（5%） Ｉ3　情報分析（15%）		
教員の実務経験	日大芸術学部放送学科のマスコミュニケーションゼミを卒業後、時事通信社に入社。初任地で1984年長野県西部地震を取材し、小規模自治体の災害対応を目の当たりに。87年に社会部科学班で気象庁担当。その後警視庁や宮内庁、東京地検、国税庁の担当後、再び科学記者として気象庁を担当し、93年に地震学会会員に。95年1月17日、兵庫県南部地震によって、郷里のまちの破壊を目の当たりにし、単なる取材者から当事者に。情報ボランティアの活動や、地震学会での普及啓発の活動などの実践を続ける。2005-2011年まで主に自治体防災担当向けのWebメディア「防災リスクマネジメントWeb」をスタートアップし、編集長を務めた。神戸市や横浜市、福島県などの自治体や、厚生省、内閣府、気象庁、消防庁、文科省など省庁の委員も務める。内閣府の防災ボランティア検討会が、2005年に設置された当初のメンバーでもあり、東日本大震災の発災直後には、東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）の立ち上げにも関与した。地元でも横浜・栄防災ボランティアネットワークの運営委員や、ボーイスカウト横浜第96団の団委員長など、地域での役割も果たす。（全回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージと対応 ２進行期～３発展期		
科目概要・キーワード	「ボランティア元年」と称される1995年の阪神大震災前までは、我が国では災害ボランティアのみならず、一般のボランティアという概念へのハードルは非常に高く、奉仕精神に溢れた特別な人が行う活動という印象で、直前にまとめられていた国土庁レポートに関わった有識者らも、ボランティアが大勢、神戸のまちに押しかけることなどはまったく、想定外のことだっ		

	た。「何の取り柄もない学生が役に立つのか」と思いながら、神戸に集まった若者たちは、次々に地震の被災地で求められている社会の隙間を埋め、被災者に寄り添いつつ、日本の災害救援の新たな場面を作りだし、戦後の高度成長を前提にした「お任せ民主主義」を見直すきっかけにも成っていった。 現在の災害対策は、ボランティアの存在なくしては成り立たない状況で、がれきの処理や被災者への炊き出し、生活物資の提供、心理的ケア、情報提供、児童教育など、災害の復旧・復興過程の幅広い分野でボランティアが活躍している。また、災害ボランティアをきっかけに、平時の社会課題に取り組む個人や企業のボランティア活動や、社会で契約当事者ともなれるＮＰＯ法人の活動が社会に拡がった。一方で、地域には地元に密着した活動を行う消防団や自主防災組織、町内会などというボランタリーな伝統的組織もある。災害対策基本法に、「連携」という言葉が書かれているが、行政も含めて社会の多様なステイクホルダーが、平時や災害時に互いの得意技を活かした活動が出来るようになっているとは言いがたい。災害の実例を踏まえながら、ボランティア活動の歴史や現状をふり返り、また憲法を背景に災対法で求められている行政の役割なども踏まえつつ、社会の主体的当事者として自発的なボランティア活動のあり方を展望。誰しもがボランタリーに役割を果たせる場面のある災害時だけでなく、平時から求められるボランタリーな能力に気づき、伸ばすことを目標とする。 授業形態は講義形式により行います。課題の提出を求めることもあります。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード　災害ボランティア・阪神大震災・社会の当事者性
授業の趣旨	■副題 災害大国日本における災害ボランティアの経緯と展開 ■授業の目的 大地震や大洪水など避けられない自然現象によって、いきなり命が損なわれ、非日常的な状況をもたらす自然災害。それによって被災した地域や人々を支えるのが、災害ボランティアの活動だ。自然災害とは何かの基本的な知識と素養を身につけ、常に改善が進む官民の災害時の諸制度を学び、社会の変化にあわせて変化する災害に対応して変化が求められてきたボランティアの活動の経緯や内容を理解することを通じて(学識・専門技能E、理解力・分析力I）、自らが置かれる多様な立場で主体的に社会貢献しようとする姿勢（B）や倫理観・公共心（C）を育むことを目的とする。 ■授業のポイント 災害時のボランティア活動は、「ボランティア元年」と言われる1995年の阪神大震災以前にも多くの災害でみられたが、戦後構築されてきた社会システムの中に、明確な位置づけはなかった。阪神大震災では、若者を中心に100万人を超える人たちが全国各地から被災地に駆けつけ、週刊誌の表紙に「君は神戸を見たか」というタイトルになるほど。その約７割はボランティア活動の経験がなかった若者だった。巨大災害で出現した膨大で多様な被災者のニーズにボランティアが対処する中でさまざまな問題も発生したが、被災者を支える大きな力としてその存在が社会的に認知された。株式会社や財団法人などのように一定の責任を持った「人格」として、新たに「特定非営利活動法人（NPO）」が産み出されたのも、阪神大震災がきっかけだった。 阪神大震災での多様なボランティア活動が、自発的に緩やかなネットワークを作り、各地で災害が起きるたびに多様な活動が展開され、政治や行政の思惑にも左右されながらも、災害時や平時の社会システムを構成する主体の一つとして当然の存在となっている。 被災地に出かけていくボランティア活動以外にも、日頃から生活に密着した地域での防災啓発活動を行ったり、地域の消防団や自主防災組織に参画する若者も増えている。一方で、戦時体制で培われた動員的な奉仕や家父長制の残滓、お任せ民主主義などが、自発的で価値創造的なボランティア活動の発展を妨げている。 この授業では、こうした主に災害時のボランティアの活動についての歴史的経緯や、活動内容の編成、行政や地域での課題を解説するとともに、阪神大震災の実話や災害ボランティア活動の現場にあるジレンマを実感するゲーム「クロスロード」も体験し、災害とボランティアの基本的な知識や素養を身に付ける。 授業の中で、災害ボランティアのキーパーソンたちに登場してもらう機会も持つ計画である。
総合到達目標	■我が国の災害ボランティアの歴史と発展の経緯、現在の防災体制上の位置づけについて説明できるようになり、将来のキャリアの中で必ず向き合うことになるであろう国難級の災害に備えるために必要な、ボランティアも含めた知識や態度を修得する。具体的には以下の通り。 ■我が国の災害ボランティアの歴史と発展の経緯、現在の防災体制上の位置づけについて説明できるようになり、将来のキャリアの中で必ず向き合うことになるであろう国難級の災害に備えるために必要な、ボランティアも含めた知識や態度を修得する。具体的には以下の通り。 ■自然災害が人間社会の弱点を突くことを実感する、阪神大震災の実話から作られた防災啓発ゲーム「クロスロード」を、講師も一緒に作った災害ボランティア編も含めて体験して災害時のジレンマを知り、日頃から積み重ねておくことの大事さを理解し、実践への基礎的考え方とする。（第2回） ■我が国にもたらされる自然災害の全体像とともに、自らが育ってきた地域で人の暮らしを

支えた自然の恩恵と災害との関係を理解し、説明できる。（第3回、第4回で解説、GW中に課題）
■自然災害の理解と受容のプロセスを、歴史以前からふり返り、近現代の科学がどのように支え、現在の災害対策に繋がってきたかを理解し、説明できる。（第5回）
■災害救援の歴史的経緯と関東大震災や阪神大震災前までの制度的変遷、その中でのボランティア的な活動の実践の経緯を知り、説明できる。（第6回）
■ボランティア元年と称された阪神大震災の概要と、そこでの多様なボランティア活動の経緯や展開、他地域の支援、ネットワークの萌芽までを知り、説明できる。（第7回～第8回）
■闇雲なボランティア活動が犠牲者を産み出した日本海での重油流出事故対応や、県庁の災害対策本部での活動となった2000年東海豪雨、複数のネットワークが緩やかに繋がるとともにネットを通じた情報支援も実現した有珠山噴火や長期避難を支えた三宅島噴火災害、2004年には10個の台風上陸で全国各地にボランティアセンターが出来るとともに中越地震で長期支援や中間支援組織の重要性を学び、静岡で全国から集まって行われていた図(頭)上訓練など、東日本大震災前までの災害ボランティアの活動の経緯を知り、説明できる。（第9回-第10回）
■東日本大震災で協働した日本型NPO系災害ボランティアと海外支援NGOとが産み出した東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）の狙いとその後の実践、熊本地震を経て設立した全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）の現状と課題について知り、説明できる。（第11回-第12回）
■災害に関連する法制度、特に応急的な被災者支援を行う財源法である災害救助法や生活再建支援法、さまざまな民間の保険も含め、被災地・被災者支援に関わるボランティアに必須な知識について知り、説明できる。（第13回）
■ボランティアの現場活動や被災地・被災者を支える情報系のボランティアの活動や、日頃からの防災啓発を担うボランティア、技術系ボランティア、自主防災組織や地域の自治会町内会、多様なNPOや学協会の働きなど、ボランティアセンター以外での多様な活動について知り、説明が出来る。（第14回）
■それぞれ個々人で異なる課題について、これまでの学びに基づいたレポートを、授業時間内に仕上げて提出する。（第15回）

成績評価方法

■以下の方法で総合的に評価します。
毎回の授業レポート（リアクションペーパー）に残されたキーワードで、授業理解度を評価します。可能な範囲で行うグループワーク（クロスロード含む）での気づきなども評価します。
身近な自然と災害理解のレポートなど、課題となるレポートの提出、内容を評価します。
受講する学生が一人ひとりの課題に向き合う最終レポートは、授業内試験として行います。授業資料、スマホ、ＰＣなど何を持ち込んでもＯＫです。

履修条件

特にありません。

履修上の注意点

授業内で紹介するインターネットの情報は有効に活用して下さい。また、地元のことを知るレポートでは、ぜひまち歩きをしてから執筆することをお勧めしています。

授業内容

回	内容
1	①授業テーマ ガイダンスとボランティアについて ②授業概要 この授業全体のガイダンスと、ボランティアについて何を学ぶのかを押さえる。被災当事者が行うこと、被災地内の相互扶助とともに、被災地の中でさまざまに不足する事柄を埋めるためにボランタリーな活動が求められることになる。地域の自主防災組織や地域の自治会町内会の働きや、自助共助への押しつけの問題とともに、災害とボランティアについてのいくつかのキーワードを紹介し、これからの学びの手がかりにする。また、受講にあたって、それぞれの災害との関わりについての簡単なワークシートにも取り組む。 ③予習(120分) 自らのこれまでの人生の中でのボランティアと呼べる活動や、自然災害との関わりについて整理しておく。 ④復習(120分) 講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
2	①授業テーマ 災害とジレンマ ②授業概要 阪神大震災の実話から作られた防災啓発ゲーム「クロスロード」の、阪神の実話からの神戸編、講師も一緒に作った災害ボランティア編を体験。災害時、ジレンマに直面しなくていいように、日頃からさまざまな課題について知識を持ち、課題整理しておくと同時に、解決の手法を整理しておくことの大事さを理解し、実践への基礎的考え方とす

		る。 ③予習(30分) 　インターネットなどを使って、阪神大震災についての概要を知っておく。 ④復習(90分) 　クロスロードのゲームセットを、希望する学生には貸し出すので、友人らと取り組むこともお勧めする。講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	3	①授業テーマ 　身近な自然の恩恵と災害(1) ②授業概要 　日本列島の成り立ちと、そこに営まれてきた人の暮らしの歴史をふり返り、身の回りの自然から、我が国にもたらされる自然災害の全体像とともに、自らが育ってきた地域で人の暮らしを支えた自然の恩恵と災害との関係を理解する。 ③予習(30分) 　自らの出身地などの場所の自然の良いところ、好きなところと、その成り立ちについて調べておく。 ④復習(30分) 　自らの身の回りの自然の恩恵と災害リスクについての簡単なワークシートに取り組む。講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	4	①授業テーマ 　身近な自然の恩恵と災害(2) ②授業概要 　さまざまな種類のWebサイト上にある地図から分かる自然の特性を知り、自らの出身地などの場所の特性を知る方法を学ぶ。 ③予習(60分) 　自らの出身地などの場所の特性を、自分なりに調べておく。 ④復習(240分) 　この日に学んだＷｅｂサイトの地図などを使って、地元の自然と災害のリスクについて分かったことをレポート用紙2枚程度にまとめる。範囲は市区町村単位以下とし、身近な生活圏までを対象にして考察。調べた後にまち歩きをしてから書くことをお勧めする。講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	5	①授業テーマ 　自然と災害、歴史と科学 ②授業概要 　自然災害を人類がどのように受容してきたか、そのプロセスを歴史以前からふり返り、近現代の科学がどのように支え、現在の災害対策に繋がってきたかの背景を学ぶ。 ③予習(60分) 　地球上の災害の偏在について、調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	6	①授業テーマ 　災害救援の歴史、ボランティア前史 ②授業概要 　災害救援の歴史的経緯と関東大震災や阪神大震災前までの制度的変遷、その中でのボランティア的な活動の実践の経緯を学ぶ。 ③予習(60分) 　1923年の関東大震災当時の社会のあり方や時代背景について、調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	7	①授業テーマ 　ボランティア元年(1) ②授業概要 　ボランティア元年と称された阪神大震災の概要と、そこでの多様なボランティア活動の展開について学ぶ。

		③予習(90分) 　阪神大震災の災害像について知っておくと同時に、講師も作成に関わった２１世紀の関西を考える会による厚生省提出資料「行政と災害ボランティアに関する主な論点」を読みこんでおく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	8	①授業テーマ 　ボランティア元年(2) ②授業概要 　阪神大震災の応急的な活動が、どのように他地域へ展開し、震災がつなぐ全国ネットワークやＪネット、東京災害ボランティアネットワークなどのネットワークの萌芽や、各地の災害への支援が展開されていくプロセスを知る。 ③予習(60分) 　身近な人の中で阪神大震災の被災した人がいたら、当時のボランティア活動についての話を聞いてみる。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	9	①授業テーマ 　支援の継続の中から発展(1) ②授業概要 　1997年1月の日本海での重油流出事故（ボランティアら4人の”過労死”）、2000年有珠山噴火災害や5年もの長期避難となった2000年三宅島噴火災害（複数のネットワークの連携）、ボランティアと行政の連携が未成熟だった2000年東海豪雨、繰り返された水害によるボランティアセンターの定型化・業務化など、阪神後から10年までの災害ボランティアの活動を振り返る。行政による「ボランティアコーディネーター」の育成だけに、課題が集約されてしまったことの弊害も知る。一方でＮＰＯ法の成立や、外務省の肝いりで海外の災害や難民支援のNGOへの資金提供のコアになるジャパン・プラットフォームの設置もあり、社会的な仕組み化が進んできた。 ③予習(60分) 　阪神大震災から数年間に起きた災害について調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	10	①授業テーマ 　支援の継続の中から発展(2) ②授業概要 　一定の経験値を持ったボランティアが支援しながら、ボランティアセンターを回すことが出来るようになっていた2004年。10個の台風が上陸して全国各地にボランティアセンターが開設、10月には中越地震が発生し、阪神ベテラン頼みではうまく行かなくなった。同時に、省庁再編に伴って2001年に発足した内閣府防災に、防災ボランティア検討会が設置され、各地の担い手たちが平時に顔の見える関係を構築し始め、地域のさまざまな担い手をつなぐ中間支援組織の重要性も共有されてきた。静岡では全国から数百人が集まって東海地震を想定したワークショップを毎年行い、東日本大震災の半年前には政府の訓練に参加していた。支援の経験豊富で被災地のボラセンを支える人材を派遣する仕組みも構築されてきていた。足湯を始めとする被災した方からのニーズ把握の方法も定着するなど、さまざまな蓄積があったなかで、東日本大震災を迎えることになったことを学んでおく。 ③予習(60分) 　東日本大震災前の数年間の災害について調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	11	①授業テーマ 　東日本大震災とボランティア ②授業概要 　東日本大震災の地震直後から連携して動き始めたＮＰＯ、ＮＧＯと政府の動き、直後に誕生した「東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）」の発足の経緯とその後の活

		動の展開。物量作戦の経験豊富な海外支援系NGOとのあつれきと連携、政権の思惑と調整など、それまで積み上げてきた経験だけでは対応できない事態に直面したことを学ぶ。 ③予習(120分) 　東北地方太平洋沖地震や福島原発1号機事故によってもたらされた東日本大震災の災害について、調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	12	①授業テーマ 　全国ネットの構築とこれから ②授業概要 　熊本地震での県内外の支援者が政府や自治体とも連携して展開した毎日の情報共有会議の経験を経て、2013年の改正災対法で「連携」を明記したことも踏まえて、内閣府の支援の元で「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）」として2016年に発足した。誰もが求めていた災害ボランティアの全国組織だが、政府との連携なども含めて、現状には課題があることを学ぶ。ボランティアセンターの活動の定型化の課題も学ぶ。 ③予習(60分) 　東日本大震災後の災害について、調べて知っておく。周囲で近年の災害ボランティア経験者がいたら、経験談を聞いておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	13	①授業テーマ 　ボランティアが知るべき法制度 ②授業概要 　被災地・被災者支援に関わる諸制度は、災害時に活動するボランティアに必須な知識である。災害対策基本法、応急的な被災者支援を行う災害救助法、生活再建支援法、自治体の地域防災計画、被災地が立ち直っていくために必要な都市計画や復興支援の法律や、地域での地区防災計画なども含めた災害被害を軽減するための諸制度、さまざまな民間の保険も含めて、ボランティアという立場から学ぶ。 ③予習(60分) 　災害対策基本法の理念を読み込むとともに、地域防災計画の位置づけを調べておく。 ④復習(180分) 　それぞれの身近な自治体の地域防災計画を読み、課題のレポートを書き、授業内試験当日に、試験とともに提出する。
	14	①授業テーマ 　被災者への活動以外の働き ②授業概要 　インターネット元年でもあった1995年は、情報ボランティアの登場を促し、現場活動や被災地・被災者を背後で支える情報系の活動が行われるようになった。また、重機オペレーターなど技術系ボランティアや、日頃から自然災害の備えについて啓発や教育を担うボランティア、また多様な職能団体の「餅は餅屋」のボランティアや、復興学会など学協会などの働きも学ぶ。 ③予習(60分) 　自らが将来進もうとする進路に関係する災害時のボランタリーな活動について、調べておく。 ④復習(60分) 　講義資料を元に、改めて気付いたことを自習し、疑問点はリアクションペーパーで質問するとともに、調べておく。リアクションペーパーのふり返りは次回の授業の冒頭で行う。
	15	①授業テーマ 　授業内レポート試験 ②授業概要 　それぞれ個々人で異なる課題について、これまでの学びに基づいたレポートを、授業時間内に仕上げて提出する。授業資料、スマホ、ＰＣなど何を持ち込んでもＯＫです。 ③予習(120分) 　13回目で課題にしたレポートを仕上げておくと同時に、14回の授業内容を振り返っておく。特に毎回のリアクションペーパーへのふり返りを読み込んでおく。 ④復習

	災害とボランティアについては、災害大国日本の未災者として備えをするためにも、何らかの社会での当事者になるものにとっても、不可欠な知識である。今後、被災者になるにしろ、支援者になるにしろ、知識をアップデートし続けて、何らかの実践を行うことが期待される。
関連科目	
教科書	
参考書・参考ＵＲＬ	菅磨志保・山下祐介・渥美公秀編『災害ボランティア論入門』（弘文堂）（講師は第5章を担当） 震つなブックレットKOBEの検証シリーズ 「避難所編」、「法律編」、「情報編」、「災害ボランティア文化」（絶版、講師が編集担当） JVOADWebサイト https://jvoad.jp/ JCNWebサイト https://www.jpn-civil.net/
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 メール（n-kazmail@nifty.com） ■オフィスアワー 各回授業の後、質問等に応じます。リアクションペーパーを使っての質問も受け付けます。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント50%；パブリックセキュリティ30%；情報セキュリティ20% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学80%：法学20%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.